

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ピュアライズ・ナノデス 74D EIGHT	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.570	△RG 0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ピュアライズ・ナノデスナナヨンディー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：ピュアライズ・ナノデスナナヨンディー

フレアーの幅 インチ

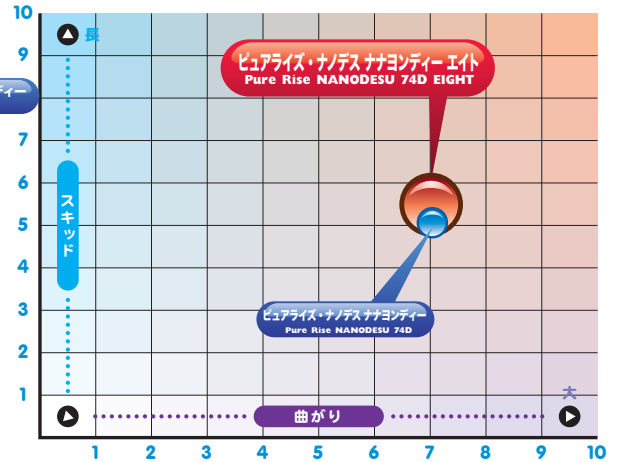
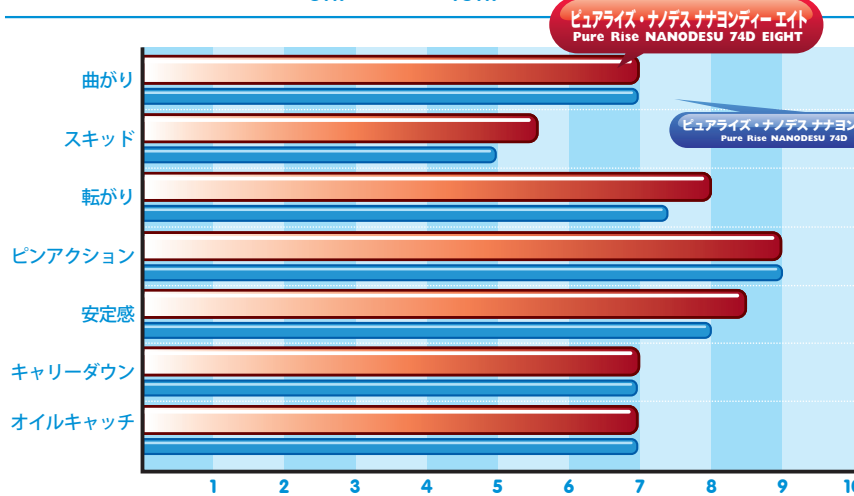
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

昨年3月ABSで初めて8ポンドコアのナノデス8を発売し、8ポンドコアの持つヒッティングパワーを体感して頂きました。8ポンドコアの恩恵は重さによる強さだけでなく、構造上慣性が高くなる直進力もピンを飛ばすパワーに変換させられることで、ピンに当たった瞬間に8ポンドコアだと分かるぐらい独特なピンキャリアを感じていただけるでしょう。今回「ウレタンボールはピンキャリアが悪い」という既成概念を覆すために、日本エポナイト社が拘り尽くしたトリプル衝撃吸収コアシステムを加えるなど、現在考えられるピンキャリア向上のノウハウを全て注ぎ込みました。前回のピュアライズ ナノデス 74Dと比較投球を行いました。やはり双方とも手前のブレーキ感は凄く良く感じました。それはやはり低架橋密度で柔軟性の高いウレタン素材が効力を発揮しているためで、ウレタンボールに必要なブレーキ感とピンキャリアにも絶大な影響を与えているのも拘りです。現在のウレタン素材のボールはオイルが少ない時用の類ではなく、「バックエンドを収める」イメージで過剰反応させずにラインを取りやすくするために使用することがほとんどです。もちろん前作も今作も手前でしっかりとオイルを使うことが必要で、手前のイメージは双方変化は感じませんでした。しかし中盤から後半にかけてのリアクションはナノデス8のような独特な8ポンドコアのイメージが反映されていて、ウレタン素材の良さも活かしながら後半の曲がりの強さを感じました。さらに8ポンドコアのピンキャリアは特別で、投げ比べるとより8ポンドコアの恩恵を感じられると思います。現在は各社様々なウレタン素材のボールが発売されていますが、重量級のコアを搭載したウレタンは他を探しても見つかりません。競技者はこのボールをバッグに入れておくことが必要でしょう。

特記事項

ついにウレタン素材のボールにヘビー級8ポンドコアを搭載し、ウレタン素材でも飛びの強さに着目されたボールが発売されます。このボールは一見の価値あります。